

	分科会名	分科会 会員 参加可否	対象者	内容	活動方法	2017-2018年度主な成果物
1	SPI推進課題分科会	可	・活動目的「改善の現場で困っている人を支援したい」に賛同いただける方 ・現場で使用可能な改善のための知識について気軽に楽しく議論することで、新たな気づきを得たい方 ・ゲーミフィケーションを教育に活用したい方	SPI推進課題分科会（略称 SSS分科会）では、プロセス改善コミュニティへの貢献としてJASPICの資産となりうる文書を作成するため、従来の議論で出てきた改善アイデア（蓄積された個別のSmallSteps事例）などを「発信可能なレベル」で文書化する活動を行ってきました。昨年度は、その延長線上として、JASPIC人材育成分科会と共同で、プロセス改善人材育成トレーニングをゲーミフィケーション理論を活用して楽しく行うためのワークショップ開発と試行を行いました。本年度は、それをさらに推進して初級者向けのSPI人生ゲームを開発すると共に、成果を纏めてJASPIC外に発表することを計画しています。 本年度は、今までの取り組みを踏まえ、以下の活動を行います。（最初のテーマは人材育成分科会と共同） ・2018年度に実施した「ゲーミフィケーション活用ワークショップ」をベースに －ゲーミフィケーション教材開発テンプレートの検討 －収集したSPIノウハウの整理とそれを活用したSPI人生ゲームの試作検討 ・現場で使用可能な改善のための知識について気軽に楽しく議論することで、SmallSteps事例を増やす －例えば、議論の内容や演習の開発過程を通じて、新たなSmallSteps事例を増やすと共に、各自の興味あるテーマを持ち寄って議論する	・月1回のペースで定例会合を開催して、各自の検討結果等を持ち寄りディスカッションする ・成果物のまとめ、および集中ディスカッションのための合宿を実施する	2018活動報告書（人材育成分科会と共同提出）
2	ソフトウェアプロセス改善知識網分科会	可	ソフトウェア開発プロセス等の改善活動を実践した経験をお持ちで、プロセス改善に関して最も重要な知識とは何かを特定し、分類し、体系化して、プロセス改善に携わる方が活用しやすい形で提供することに、興味がある方。ご協力をお願いいたします。	プロセス改善において、必要とされる知識の構造や関係性、コアとなる部分やその広がりを調査研究することで、プロセス改善や知識に関する理解を深め、あわせて、必要な知識の収集と活用のしくみを構築する。 本年度は、今までの取り組みを踏まえ、以下の活動に注力する。 ・SJ-WOKを実装する（初期コンテンツとしてSPI Japan 2013-2018の全発表概要の取り込みと検索機能の試行） ・キーワード体系を整備する（整備したキーワード体系は、都度、SJ-WOKに反映する） ・SJ-WOKコンテンツ（SPI Japan事例）から、知識や知見の抽出を試み、ミネタ「1日1理＝巨理帳」として纏める ・整備されたキーワード体系と抽出した知識をベースに、知識体系BOK（v0.5）を構築する ・SPI Japan2018でのテンプレート活用効果を分析し、SPI Japan 2019向けにテンプレートを改良する（事例⇒得られた知識・知見の明確化）	月1回のペースで土曜日に定例会合を開催して、各自の検討結果等を持ち寄りディスカッションする ・成果物のまとめ、および集中ディスカッションのための合宿（1泊2日）を年1～2回実施する	①2018年度活動報告 ② SPI Japan 2018発表概要テンプレート ③学術論文誌への投稿論文（EuroAsiaSPII2017投稿論文の改訂版） ④巨理帳（SPIMIニ知識集）初版
3	Statistical Process Control分科会	可	ソフトウェア開発に関する種々のデータの分析、活用に関心のある方	・機械学習、データマイニング手法などの発展を背景に新しい統計分析手法が提案されつつある。ソフトウェア工学の視点から、これらの手法の適用可能性を調査検討し、その成果をまとめる。 ・ソフトウェア技術者にもデータ分析に関するリテラシー向上が望まれている。ソフトウェア開発に現れるデータを中心としたデータ分析の解説・演習書を作成する。作成はRStudio等を用い、PC上実行可能な形式にまとめる。	・データ分析技法の輪読、文献調査を行い、結果をまとめる。 ・RStudio等を利用したデータ分析の紹介資料、演習資料を作成する。	非公開
4	SPI現場ノウハウ交換分科会	可	現場でのSPI活動に日夜苦労されている方、及び、CMMIの実践ノウハウに関心のある方	CMMI（V1.3）をベースに作成されたハンドブックを叩き台に、実践的解釈と研究およびハンドブックの改善を行う。 具体的には、CMMI2.0のプラクティスを読み解き、プラクティスレベルでV1.3とV2.0の対比をすることで、V2.0の理解に役立てられるようなハンドブックへの更新を検討する。更にプロセス改善全般の実践的活用事例等を研究する。 プラクティス領域及び研究方法はメンバーで議論し、選択する。 <研究方法> ① 対象プラクティス領域のプラクティスの実践的な解釈を議論し、具体的な実践方法を形式化化する。 ② 実践的解釈に基づき、プロセス改善の実践方法について議論し、成果物にまとめる。	月に1回程度の会合（会場はメンバー持ち回りを原則とする）	①SPI現場ノウハウ活用ハンドブック_v 2.3.0（CMMI V1.3 全PA網羅版） ②実装例シート（OT-OPM）サマリ_rev03
5	コア・コンピテント・チーム研究会	可	非公開	PSPやTSP、パーソナルプロジェクトマネジメントといった、個人やチームの基本的な能力に着目し、必要な能力やその高め方などを研究、学習しながら、知見として高めていきます。 ソフトウェア開発においては、個人の能力ややる気が成果に強く影響するため、教育や研修、動機づけといった要素が重要です。プロジェクトマネジメントといった技術論だけでなく、アクティブラーニングや組織マネジメントなどのより基本的な領域について学習します。 会合では、輪読だけでなく、初心者や有識者の違いにこだわらず疑問や意見を自由かつ積極的に出し合って意見交換します。そのような意見交換で、だれも気付かない課題やより良い施策に気づき、組織に持ち帰って実践したり、他の会合で提案するなど、メンバの視点を広げることに貢献します。	月に1回程度の会合(主に関東、適宜関西にて開催)および合宿、メーリングリストでの議論	非公開
6	プロダクトライン分科会	可	・プロダクトライン型の開発を成功させたい方 ・プロダクトライン型の開発の導入を考えている方 ・複数の製品ラインナップを効率良く開発したいと考えている方 ・ソフトウェア資産やプロセス資産を有効活用したいと考えている方	プロダクトライン分科会は、その名の通り「ソフトウェアプロダクトライン」に興味を持つ研究員が集まり、2005年から活動を続けています。年度の初めに決めた活動テーマに沿って、各自が本業の傍ら調査検討した結果を持ち寄り、2ヶ月に1回程度集まって議論を交わすことで、新たな知見を獲得し、プロダクトラインへの理解を深めています。 その成果は、直接間接に自らの業務に活かすだけでなく、JASPIC内に展開するとともに、JASPICが開催する外部向けセミナーにて積極的に発信しています。（http://www.jaspic.org/activities/sig/308-spl/） 今までの活動内容を振り返りますと、当初は、プロダクトラインに関わる外国書籍や文献の勉強会から始め、次第に、具体的な事例調査による本質の理解へと進み、さらに、実際にプロダクトラインに取り組むための経営者への提案の仕方、導入の過程に於いて注意すべきポイントの検討へと活動内容が移って参りました。 分科会メンバーの経験や知見を活かした会合の場での議論を通じ、新たな理解を得て、今まであまり触れられていなかった観点からプロダクトライン開発の様々な姿と問題点について検討を進めております。その一例として、グループ会社で分担してプロダクトライン開発に取り組む場合の注意点や、組織文化の違いや改善活動の経験がプロダクトライン導入戦略に与える影響、共有資産の再利用と言う観点での派生開発とプロダクトライン開発の差異など、いくつかの知見がこれまでに得られております。 本年度も継続して共有資産の再利用に向けたプロセス問題を取り上げます。これまで構成管理観点からの派生～プロダクトライン型開発全般（「派生開発プラス」と呼ぶ）、および要件・アーキテクチャに対する検討を受けて、引き続きテスト資産の再利用を取り上げる予定です。また、参加者からの希望を受けて新しいテーマにも取り組んでいきたいと考えております。個人としてJASPIC分科会活動に参加できる分科会会員制度もございますので、ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。	・1～2ヶ月に1回程度の会合にて、各自の検討結果を持ち寄ってディスカッションを行なう。 ・成果物のまとめ、もしくは集中ディスカッションのための合宿ないし合宿様の会合を1～2回程度実施する	①SPITフイライトフォーラム 2018年3月発表資料 ②TSPIC年次大会2018年5月講演資料

	分科会名	分科会 会員 参加可否	対象者	内容	活動方法	2017-2018年度主な成果物
7	人材育成（People Process）分科会	可	S P I 人材育成に関わる広い知識を調査・研究し、新たな人材育成活動の試行に積極的に参加できる方	<p>人材育成（People Process）分科会では、ソフトウェアプロセス改善のための人材育成を各種の課題、技法、教育体系、知識体系等の観点で検討を加え、得られた知見をもとに各社の教育プロセス改善に役立つ成果物作成を目指して活動しています。JASPIC人材育成分科会に参加していただく、活動テーマはもちろんですが、その他いろいろな面で分科会活動や合宿を通して自社内では得られない多くの知見や気づきを得られます。</p> <p>【これまでの活動テーマ 2010年以降】</p> <p>2010年 人間系スキルの実態調査と人材育成カルテ（素案）の作成 2011年 人材育成カルテの試行とカルテ活用ガイドの作成 2012年 JASPIC10周年イベントパネル作成と活動紹介/Facebook の活用 2013年 「同業種から学ぶ人材育成」「異業種から学ぶ人材育成」 2014年(計画) 継続テーマ「同業種から学ぶ人材育成調査」「異業種から学ぶ人材育成調査」 2015年 仮想体験型教育事例調査・研究／ECQA連携 2016年 アジャイル型人材育成調査・研究／アジャイル分科会連携 2017年 ゲーミフィケーション活用ワークショップ開発と実施（SS s 分科会と協同活動）</p> <p>以下の人材育成分科会の紹介ポスターも是非ご覧ください。2012年の10周年イベントの一環で作成したものです。 「人材育成課題と解決方法の共有を目指して」<http://www.jaspic.org/event/2012/10th/HRD.pdf> 当分科会の活動に興味をお持ちの方、及び資料に関するお問い合わせは、お気軽にJASPIC事務局までお知らせください。</p> <p>本年度は、今までの取り組みを踏まえ、以下の活動を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度に実施した「ゲーミフィケーション活用ワークショップ」をベースに －ゲーミフィケーション教材開発テンプレートの検討 －収集したS P Iノウハウの整理とそれを活用したS P I 人生ゲームの試作検討 ・国内外で活発になっているアジャイル開発や関連活動を通して、組織風土改善・個人の育成のための新たなS P I 人材育成の可能性を探る －Teal組織（指揮命令ではなく、信頼で結びついた組織）について －弱音を見せられる組織（ロバートキーガン） 成人発達理論について －アジャイル人事（アジャイルに仕事を進めるために適した組織形態と評価プロセス）について －OECD Learning Framework 2030 「生き延びる力」の育成について 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のペースで定例会を開催して、各自の検討結果等を持ち寄りディスカッションする ・成果物のまとめ、および集中ディスカッションのための合宿を実施する 	2018活動報告書
8	関西分科会	可	組込開発プロセス、派生開発、アジャイル、SPI/SQAなどソフトウェアのプロセスや技術に興味があり、特に関西での会合であれば参加しやすい方。話したいテーマの持ち込み、社内で解決できない課題相談も可能です	<ul style="list-style-type: none"> ① JASPICの他の分科会・運営状況・例会やSPI Japanなどのイベント情報の共有 ② 各自の課題や事例（アジャイル、派生開発、オフショア、DevOps、イノベーション）について各社の事例を踏まえて課題解決の提案をする。 ③ SPI Japan に向けたワークショップ（抽象化スキルアップのワークショップ） プログラムを作成し発表する。 	<p>隔月1回程度の会合（原則、奇数月の水曜日）とし、会場はメンバ持ち回りを原則とする。</p> <p>【前半戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の会議にて、そのテーマに関する「問題」や「相談事」を提示。その問題や相談ごとについて、各社事例を持ち寄り、その問題や相談事を解決する。 <p>【後半戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SPI Japanに向けたワークショップ（抽象化スキルアップ）のプログラムを考案し詳細にプログラムを作成していく 	関西分科会ディスカッションテーマ
9	要件定義プロセス分科会	可	要件定義に関する問題意識を持ち、あるべき姿に向けて一緒に検討したい方	<p>DX, SoE, 共創など、ウォーターフォールでの要件定義のやりかたでは、合わなくなってきている。アジャイルでのプロダクトバックログ(ビジネス的なユーザーストーリー)のやり方が良いと思われるが、「どこまで記述すべきなのか?」「実装までのトレーサビリティはどのように確保するのか?」等々、検討すべきことがある。</p> <p>現在提唱されている様々な要求工学的な手法も調査して、得られた知見を共有し、あるべき姿について検討/整理を行う。</p> <p>標準文献： ソフトウェア要求 第3版（K.Wiegers, J.Beatty：日経BP社）等</p> <p>分科会メンバ以外へのヒアリングも併せて実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の分科会との連携を検討し、提案（成果物のレビュー、意見交換など） ・対外活動参加報告による情報交流（JISAコミュニティなど） ・要求工学の研究者（大学など）との交流 ・モデリングツールベンダとの議論 … 等々 <p>要件定義プロセスの向上に寄与するような開発現場への提案を成果物としてまとめて、継続的にブラッシュアップしていく(既存の成果物も含む)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10回程度の会合（会場はメンバの持ち回り） ・資料、文献については、適宜、各自が調査して、結果を会合に持ち寄る 	<ul style="list-style-type: none"> ① 2018_分科会活動報告（議事録） ② 要求工学手法の特性分類_2018（一覧表） ③ 要求の特性_2018 ④ 要求に関する手法・トピックス_2018
10	プロセス改善戦略分科会	可	・プロセス改善活動の戦略的な計画立案や、現在の戦略の診断・見直しに関して興味のある方 ・プロセス改善戦略のフレームワーク研究に興味のある方は大歓迎	<ul style="list-style-type: none"> ・「戦略フレームワークキット(*)」を用いて、分科会メンバーの関係する組織・事業を対象とした「改善戦略のまとめ・評価・改良」などの議論を行う。 <p>(*)これまでの改善事例や、一般的な戦略理論に基づいた、改善活動の進め方の重要な点（成功因子）をまとめたもの。客観的な戦略分析を可能にし、従来の活動では見落としていた問題点の特定や、ブレークスルーを発見するのに役立つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（プロセス改善戦略を中心として、他分野も含めた）戦略についての研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回程度のWeb会議 ・年に1回の合宿。 ・学会発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ①2018年度活動報告書 ②分科会メンバー組織におけるプロセス改善戦略の調査・企画結果 ③プロセス改善戦略フレームワーク(2018年版) ④EuroAsiaSPI2018での発表論文・発表資料
11	IDEALモデル実践研究分科会	可	・全社、開発部門でSPI活動を推進している方 ・経営層や現場への効果の見せ方で悩んでいる方	<ol style="list-style-type: none"> 1. SPI活動の成果や効果の見せる化の研究 IDEALモデルのフェーズ毎で、どのように成果や効果を測り、どのような事を見せるのかについて、情報交換を行い、有効な成果や効果とその見せ方を検討する。 2. 外部情報の取り込み 関連するセミナー、講演会に参加した場合、例会の場で紹介する。 	年に4回程度の会合と、2回程度の合宿	<ul style="list-style-type: none"> ①SPI活動の成果・効果のまとめ ②新しいIDEALモデル
12	SPI Manager分科会	可	・SPI推進者向けのトレーニングおよび認定資格に興味のある方 ・ECQA認定「SPI Manager」資格のトレーニング受講の希望者、および資格試験受験の希望者 ※ECQA = European Certification and Qualification Association https://www.ecqa.org/	<p>本分科会は、ECQA(https://www.ecqa.org/)が提供する“SPI Manager”資格を研究対象とし、JASPICが提供する“SPI Manager”トレーニング（有償の2～3日間コース）の受講者を対象として、“SPI Manager”資格試験の合格に向けた勉強会として発足しました。</p> <p>本年度の活動内容としては、以下を予定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JASPICが提供する“SPI Manager”コース受講者を対象に、資格試験を受験するための準備活動（勉強会、模擬試験など）を行うことで、受験希望者の学習の場を提供する。 ※SPI Manager資格試験および対応するトレーニングコースは、別途JASPICが実施します。 本分科会のメンバーは、コース受講前後から受験までの間、各種の支援を受けることが可能です。 ・ECQA版トレーニング教材に日本向けの教材を追加することで、日本におけるSPI実務者向けトレーニングへと拡充する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会合（全体または受験希望者を集めて）および年1回程度の全体合宿（または複数回の準合宿） ・メールやWeb会議システムを利用した打合せ/討論 ・“SPI Manager”試験の受験 	非公開

	分科会名	分科会 会員 参加可否	対象者	内容	活動方法	2017-2018年度主な成果物
13	オフショア分科会	不可	非公開	<p>中期的に下記内容を中心に調査研究を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定地域（例：中国沿岸部・中国内陸部、ベトナム、インドなど）におけるIT業界動向の研究 ⇒特にオフショア開発における関連テーマとして、「定着率(ノウハウ継承含む)」「コストメリット」「アジャイルなどの新技術対応」にテーマをあてた研究を実施 <p>「ノウハウ継承」と「アジャイル」については、JASPIC内で活動している各種分科会とのコラボなどを企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オフショア（会社・成果物）に対する評価方法や受入基準などの事例の収集 ・海外勤務・駐在経験者からヒアリングを行い、オフショア先から見た課題共有・抽出 ・オフショアに関する他団体の研究会・ワークショップなどに参加し、その情報のフィードバック ・その他「オフショア」に関する様々な情報共有・課題検討・事例研究 	非公開	非公開
14	アジャイル分科会	可	<ul style="list-style-type: none"> ・アジャイルに興味を持っている人 ・アジャイル開発を推進する人 ・アジャイル開発に携わっている人 	<p>1. これまでに検討を行ってきた以下のテーマについて深堀を行いテーマ毎に提言としてまとめる</p> <p>【メインテーマ】 アジャイル開発をプロセス改善の観点で見る</p> <p>【個別テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Start Up アジャイル開発に初めて取り組む際に気を付けることや、どこから、何から始めればよいかの指針の検討など（実際の取り組みもありそう） 2) 横串で見るためにどうすればよいのか 開発チーム外の第三者が、複数のアジャイル開発チームの状況を把握するために必要なこと、注意すべきことなど 3) アジャイル開発におけるSEPG/SQAのあり方 アジャイル開発でSEPG/SQAは何をすればよいのか、どういった立ち位置にいればよいのかなど 4) グランドデザイン作成支援 アジャイル開発の「グランドデザイン」作成をSEPGが支援することは、SEPGが担うべき役割のひとつであると仮定し、JASPIC会員から事例を収集してパターン抽出を行いプロジェクトで活用してもらうことを目指す <p>2. 参加メンバーのスキルアップを図るための活動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ、輪読等（内容についてはこれから検討） ・外部識者を招聘して意見交換を行う ・JASPIC内外のコミュニティとの交流を図る <p>◀過去の主な活動実績▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪読（アジャイルの魂） ・アジャイル祭り（JASPIC例会） ・アジャイル開発行動展示 Be Agile！アジャイルで行こう！（SPI Japan 2016） ・小部屋企画 頭と体で納得！「アジャイル開発」（SPI Japan 2017） ・etc 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～2か月に1回程度の会合（年に数回の合宿を含む） ・テーマ毎に各自が持ち帰り事前に検討を行う ・勉強会（ワークショップ、輪読等） ・外部交流 	<ol style="list-style-type: none"> ①2018年度活動成果報告書 ②アジャイル開発スタートアップキット ③アジャイル開発 グランドデザイン作成支援
15	プロセス改善への機械学習応用分科会	可	プロセス改善への機械学習技術の応用に関心のある方	<p>AI(機械学習)技術が急速に進展しつつあり、種々の分野への応用が模索され関心を集めている。本分科会では、プロセス改善への応用を念頭に以下のような活動を実施する予定である：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 代表的な研究者の研究内容調査、講演会の開催（講演会はJASPIC内に公開するよう企画） (2) 基本的な文献の輪読 (3) 分科会参加者間の情報交換（機械学習環境の調査報告、試行結果、トピック紹介など） <p>◀過去の主な活動実績▶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部の研究内容を紹介する講演会（和歌山大学大平先生、日立製作所） ・輪読会（瀧雅人、「これならわかる深層学習入門」、講談社(2017) 第5章まで読了） ・論文紹介（ICSE, ソフトウェアシンポジウムなどから関連論文をピックアップ） ・機械学習チュートリアル（TensorFlow, Python） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会（月1回程度）開催（会場は分科会メンバー所属のJASPIC会員企業内） 輪読会、論文紹介、分科会メンバー内での経験共有などを実施する ・「機械学習のプロセス改善への応用」に関係したテーマでの講演会開催（外部研究者招聘） 	<ol style="list-style-type: none"> ①講演資料(和歌山大学大平先生による講演会) ②分科会内で実施したチュートリアル資料 ③輪読会記録 ④論文紹介